

2016年（平成28年）3月1日

藤沢市長 鈴木 恒夫 様

藤沢市外国人市民会議

藤沢市外国人市民会議の提言の提出について

藤沢市外国人市民会議は、藤沢市の多文化共生のまちづくりを推進するために、「提言」と「アクション」の2つを軸に活動しています。この度、藤沢市への提言をまとめましたので、市長へ提出します。

提言をまとめたのは、今回が初めてです。私たちは、今まで藤沢市で生活してきて、藤沢市での生活に慣れるまでにいろいろな困難がありました。今も難しいと感じていることが沢山あります。言葉や手続き、子育ての悩みなど、子どもから大人にかかわるいろいろな問題について、生活の中で感じてきたことを踏まえて話し合い、どうしたら外国人や日本人にとって暮らしやすい藤沢市になるのかを考えました。その中から今回は、「情報発信方法と情報の内容について」と「交流や助け合いの仕組みについて」にテーマを絞りました。

提言をまとめる際には、普段から外国人と接している日本語教室の先生方とも話し合い、そこで出た意見も反映しています。

この提言内容は、私たちだけでなく、藤沢市で暮らす外国人市民の皆さんが感じていることだと思えます。ぜひ、外国人市民が感じていることや考えていることを理解してもらい、多文化共生のまちづくりに活かしてもらえよう、よろしく願います。

崔 英善（韓国）：コーディネーター

陳 静璇（中国） 姜 世ゴ（中国）

岳 発東（中国） 七社 ポッチャニー（タイ）

斉 永前（中国） 藤 ツェルナー エルフリーデ（ドイツ）

関根 ヘレン（香港） 市川 ジョバンニ（ペルー）

西山 友美（ベトナム） 岩田 モンセ（スペイン）

米山 リディア（ペルー）

（ ）は出身の国・地域

藤沢市外国人市民会議の活動について

藤沢市外国人市民会議は、藤沢市の多文化共生のまちづくりを推進するために、外国人市民の意見を市の施策に反映することや、外国人市民がまちづくりへ参加するきっかけとすることを目的として、2012年1月（2011年度）から始めました。会議には藤沢市在住、在学、在勤や、藤沢市で活動する外国人が参加しています。2015年度は9つの国・地域出身の16人の委員が集まっています。会議は「提言」と「アクション」の2つを軸に活動しています。私たちはこの2つの軸を藤沢市の外国人市民会議の特色と考えています。

2013年度までは、藤沢市で生活をして感じることや、藤沢市にあったら良いと思うことについて話し合いをしました。また、「藤沢市多文化共生のまちづくり指針」や「ふじさわ生活ガイド」を改定する時に、外国人の視点で意見を伝えてきました。

2014年度は、アクションを起こしました。「世界の経済と文化を体験しよう！」というイベントを開催し、市民と共に世界の経済格差の問題を考えたり、委員の出身国の文化を紹介しました。

2015年度は、アクションとしては「WORLD SMILE @ FUJISAWA」というイベントを開催しました。演劇を通して多文化共生や平和の大切さを考えたり、市民と交流しながら、楽しく委員の出身国の文化や言葉を紹介しました。それに加えて、提言をまとめました。

藤沢市外国人市民会議は、外国人も日本人も共に生きる藤沢市を目指して、これからも活動していきます。

藤沢市外国人市民会議の提言

1 情報発信方法と情報の内容について

【背景】

自治体や入国管理局などが外国人に役立つ情報を出していても、ポスターが貼ってあったり、カウンターに置いてあるだけでは外国人は気づくことができません。外国人をサポートする側の情報が、サポートを受けたい外国人に伝わらないことがあります。更に、地震や津波などの災害がない国から来た外国人は、災害が起こった時の対応や、災害に備えて何をすべきか分からず、不安を感じています。外国人はこれらの情報を知りたい、学びたいと思っています。しかし、日本語や藤沢市のことがまだわからない外国人にとって、自分で生活に役立つ資料を探したり、調べることは難しいです。また、日本語で書かれた資料を沢山もらっても、外国人はどれが自分に必要なものなのか見極めることは難しいです。

藤沢市では、月に2回広報を発行していますが、書いてある内容を理解することができなかつたり、この紙が広報であるということをわからない外国人もいます。広報に大切なことが書かれていても情報を得ることができずに困っています。

藤沢市では、藤沢ファンクラブに登録すると、メールや Facebook でいろいろな情報が発信されますが、せっかく登録しても日本語ではわからないこともあります。

【提言】

① 情報の管理と発信方法の工夫

外国人向けの情報や多言語で作っている資料を、集めて管理するプラットフォームのような場所を作ってください。そして、住民登録などのきっかけを利用して、市役所を訪れた外国人に情報を積極的に伝えてください。

また、外国人が自分に必要な情報を探して利用できるよう、外国人向けの情報を配信するアプリケーションを作るなど、デジタルでの情報発信ができれば良いです。

防災や災害が起きた時の対策についても、多言語の防災ガイドの他に、ホームページやアプリケーションを活用して、気軽に防災について学ぶことができると良いです。

②言葉と広報の工夫

情報は、多言語での表記が望ましいですが、翻訳が難しければ、平仮名や振り仮名、ローマ字を増やしてください。

特に、広報は振り仮名をふって、やさしい日本語で書いてほしいです。振り仮名がふってあるだけでも外国人にはとても助けになります。また、広報に外国人用のページをつくって、1か月分のニュースがまとめてあると良いと思います。それに振り仮名がついていれば、大切な情報を理解することができるし、日本語を読む良いきっかけにもなります。

③多言語版の藤沢ファンクラブメールの配信やFacebookページの作成

多言語で藤沢ファンクラブメールが配信されると、外国人も市の魅力的な情報を理解することができます。また、多言語版のFacebookページがあれば、自分の言いたいことや質問を母語で書き込んで、同じ出身国の人どうしでやりとりができます。場所も必要ありませんし、忙しい人でも自分の好きな時に書き込むことができて便利だと思えます。

④直接話を聞いて、理解する機会の提供

情報を読むだけでなく、税金や保険料、防災など様々な分野のセミナーを開いても良い、直接話を聞いて情報を得ることができれば良いと思います。

⑤情報の内容の工夫

今すでに市などで出している情報の他に、次のような情報があると良いです。これ

らの情報は藤沢市に住む外国人や、外国人観光客だけでなく、日本人にも役に立つものもあると思います。

(a) 主に市民向け

- ・外国語が通じる病院についての情報
- ・外国人コミュニティについての情報
- ・税金や保険料の計算方法についての多言語情報

(b) 主に観光客向け

- ・ベジタリアンやハラール料理など、多国籍食品がどこで売っている、食べられるという情報
- ・無農薬や有機農産物（オーガニック）の食品がどこで売っている、食べられるという情報
- ・様々な宗教に合ったお祈りができる場所についての情報
- ・スポーツ観戦などのルールやマナーについての情報

2 交流や助け合いの仕組みについて

【背景】

外国人は日本へ来た当初は知り合いがない他、日本語の壁があるので、友だちができるまでに時間がかかります。日常生活の中では、外国人どうしや日本人との交流の機会は少ないです。仲間ができると日本語の学習意欲も湧きますし、藤沢市での生活ルールなどを自然と習得できて、自立へつながると思います。

日本に長く住んでいる外国人でも、日本の文化を体験したことがなかったり、有名な観光地など日本について知らないことが沢山あります。日本を訪ねてくる母国の友だちに日本のことを聞かれても、なかなか答えられません。

はじ めに ほん く がいこくじん おな しゅっしんこく ひと はな あんしんかん おぼ ことば つう
初めて日本に来る外国人は、同じ出身国の人と話すとお安ん感を感じます。言葉が通じる
だけで気持ちやすが安らぎますし、しやくしよ びょういん い とき ことば わ ひと いっしょ
市役所や病院へ行く時に言葉が分かる人が一緒だと、とて
も助けになります。

【提言】

① 交流、相談、学びの場の提供

がいこくじん にほんじん こうりゆう そうだん つぎ ばしよ よ おも
外国人どうしや日本人との交流、相談などのために、次のような場所があれば良いと思
います。

がいこくじん にほんじん きがる あつ こうりゆう ばしよ ふじさわし す がいこくじん がい
外国人や日本人が気軽に集まって、交流できる場所。藤沢市に住んでいる外国人や外
国人を支援したい人が誰でも来ることができて、ともだち つく せいかつ こま
友だちを作ったり、生活で困ったこと
などを相談できるようにします。

がいこくじん おや こそだ がっこう そうだん じょうほうこうかん ばしよ こ
外国人の親が子育てや学校のことについて相談や情報交換できる場所。子どもどう
しが交流できる場所。

にほんご たんのう がいこくじん にほん ぶんか さどう そぼづく きがる たいけん
日本語が堪能でない外国人も日本の文化(茶道や蕎麦作りなど)を気軽に体験したり、
にほん ちり まな ばしよ かい こうぎ まいしゅう かい き にちじ
日本の地理などを学ぶ場所。1回だけの講座ではなく、毎週1回など決まった日時に
おこな ねんかん なが けいぞく よ おも
行い、1～2年間のように長く継続できるものが良いと思います。

これらを行うために、できれば、がいこくじん がいこくじんしえん ちゅうしん ば
外国人センターのように外国人支援の中心となる場
所と、市内にいくつかランチ(支所)をつく
つもスタッフがいて、がいこくじん にほんじん じぶん す とき い こうりゆう そうだん
外国人や日本人が自分の好きな時に行って交流や相談ができると
良いです。

② 外国人ボランティアの活用

ふじさわし なが す ふじさわし せいかつ せいふう がいこくじん にほんご たんのう がいこくじん
藤沢市に長く住んで藤沢市での生活に精通している外国人や、日本語が堪能な外国人の
ボランティア制度があると良いです。ボランティアと、ボランティアのサポートを受けた

人は、言語に合わせてマッチングをします。そして、市役所や病院などへ困っている外国人とボランティアが一緒に行けると良いと思います。

更に、外国人を支援する人と支援される外国人で「タンデムパートナー」を作り、外国人の生活をサポートするシステムがあると良いと思います。タンデムパートナーは二人乗り自転車のイメージです。後ろの支援される人は一人では生活に不安がありますが、前の支援する人（日本人や日本での生活に精通した外国人）に気軽に分からないことを聞けたり、一人ではできないこともパートナーのサポートと共にできるようになります。

③観光客と交流する機会の提供

外国人観光客と日本に住んでいる外国人や日本人がふれ合う機会があると良いです。外国に行って同じ出身国の人と会えると安心できるので、外国人観光客にも日本で安心して過ごしてもらうことができます。更に、日本人や同じ出身国の人と交流をすることで、観光だけでなく、より充実した時間を過ごすことができるので、藤沢を良いまちと感じてもらえると思います。

以上